



心あったかニュース

私たちは、 地球に産まれた、宇宙人

2023年、NASAの探査機「オリスレックス」が持ち帰った砂や岩石から、生命エネルギーを得るために使う糖の一つと、生命の設計図といえるRNAをつくる材料の一つであるリボースを含め、6種類の糖が見つかりました。

もちろん、糖類だけでは、すべての証拠ではありませんが、このことは、糖、アミノ酸、タンパクの部品、核酸の要素、遺伝子の構成要素など、生命につながる基本的な化学成分が宇宙で形成されていたことが示されています。地球も宇宙の一部なので、宇宙由来といえ、そうですが、さらに！宇宙の成分で創られた命だったようです。

ペンは太陽系にある小さな天体です。そこで生命に必要な材料が確認されたということは、生命の材料は、宇宙全体に多く存在しているかもしれない、他の星でも似たような化学プロセスが起きている可能性も低くなく、宇宙は生命の元で満たされているなんて、なんだか素敵です。いままでより、もっと宇宙

が身近になった感じがしてきます。ヤフリーニュース 地球に持ち帰った小惑星ベンヌの試料から「ブドウ糖」が見つかる 海外Ziff

Davis 発 参照） また新年には、生命の材料、予想よりはるかに地球の近くで形成された可能性リウグウ試料分析 という記事も飛び込んできました。はやぶさ2が小惑星リウグウから地球に持ち帰ったものから、生命「アミノ酸を含む」の材料となったと考えられる水や有機物質の大半は、太陽系の寒冷な外側領域と巨大ガス惑星の木星近傍の両方に由来する生命の原材料物質が地球にばらまかれた可能性が高い。というニュースがありました。日本の技術も生命の起源の研究に大きく貢献していることも、うれしいです。このベンヌという惑星は、太陽系が誕生したとされる約45億年前から存在する母天体となる惑星の一部であることも判明しているということです。GIZMODOより）ベンヌにあったナトリウム濃度の高い水が蒸発し、ミネラルの残留物の塊が残された形になっていたそうです。水は母体から受け継がれていて、土星の衛星エンケラドゥスや準惑星のケレスなどの、太陽系に存在するさまざまな天体も、同様に生命の素材を含んだ塩水のあとが発見できる

可能性があるということとです。生命起源論の一つであり、地球の生命の起源が宇宙からきたというパンスポミア説に、科学的根拠が積み上がり、リアルになってきたようです。宇宙にある小さな天体でも、生命になる材料が生成されていて、私たちの地球へも届けられていました。まるで宇宙が生命の材料工場のよう働いているなんて、地球だけ！という感覚が薄れていくのと同時に、宇宙自体が、生命力にあふれているような、生きることって、思うより壮大に思えてきます。たまに思えて、もうないです。私たち人類、そしてあらゆる生命が生まれるべくして、生まれている。それは、宇宙がそれを望んだからということなのだと感じられてきます。私たちの奥深いところから、宇宙のあたたかいものが流れています。今年もよろしくお願いたします。